詳 業内容

1 事業名	たのしくハブラシリサイクル!				
2 応募者名	ライオン株式会社	連絡先	サステナビリティ推進部 中川 敦仁		

異物除去 >> 粉砕

3 内 容

①本事業の目的

既存取組みの目的・状況



口腔内健康は、全身健康への関連も指摘さ れており、ハミガキ習慣は生活者の QOL に 直結する重要な健康習慣である。一方でハ ブラシは長く使用すると、用毛の機能が劣 環境にいい 化し、所定の清掃能力が発揮できなくな

そこで、1か月を目安に新しいハブラシへ プラスチック製品に再生します。 の交換を生活者へ推奨するとともに、使用 済みハブラシの回収・再生を行うことで、 身近なリサイクル体験として 2016 年より プログラムを運営してきた。

これまでに回収拠点 1080 ヶ所、のべ 100

既存取組みの課題



既存の取組では上記フロー図の通り再生を行っている。この際フィルタで 漉しとった残渣が左図となる。矢印で示しているものが、用毛をハブラシ ハンドルに固定している平線(真鍮)である。また全体を覆っている灰色 のものはすべて用毛である。

比重分離 乾燥

⇒再生プロセスを改善することで、ハブラシリサイクルの精度・コスト 双方の改善が期待できる

②本事業の実施内容

-1 ハブラシ回収・前処理機の開発

生活者が回収拠点で直接投入できる前処理機を開発する。 機器上部に設けたスロットに1本ずつハブラシを入れカバー を閉じると自動的にヘッド部をカットし、ハンドル部を 5 mm 角程度まで粉砕する。このプロセスを観察しながら「何故こ うしたプロセスが必要か」を生活者に伝えることで、生活者 の理解が深まることを期待している。





-2 ヘッドカットを前提としたリサイクルプロセスの改善

回収時にヘッドカット+粉砕されたハブラシは上記既存再生プロセスのうち、異物除去~乾燥 までのプ ロセスを割愛できる可能性があり、本事業での回収物による再生実験を行い、プロセス改善の可能性を判 断し、概算のコストを算定する。

-3 ヘッドカット機を活用した板橋区主催イベントでの使用済みハブラシ回収

-1 で開発した前処理機を用いて、 イベント等での回収を行う。 回収にあたっては、 別途ライオンがハブラシ リサイクル実証事業において連携協定を締結予定の板橋区の協力のもと、「いたばし産業見本市」などの会 場での回収を行う。

③取組実績

ライオンは 2016 年よりテラサイクル合同社とともにハブラシリサイクルに取り組んでいる。このスキー ムでは有価物としてハブラシを回収、宅配便による移送を経て再生、植木鉢などに再製品化している。し かし、そのプログラムコストの約50%を宅配便費用が占めていること、再生時(ペレタイズ)のフィルタ 交換頻度が高く再生コスト低減の障害となっている。

④本事業において期待される効果

- ◆ 生活者がリサイクルに手軽に楽しく参加でき、より深く知りたい欲求をもつ
- ◆ 回収拠点での前処理の自動化により、リサイクル工程の簡略化の可能性を把握する
- ◆ ブランドオーナー企業のリサイクル活動への関与により得た知見が、新製品開発を通じてよりリサイ クルしやすいモノづくりに反映される

⑤実施体制と各社役割

企業名	企業概要	役割		
ライオン株式会社	代表者: 掬川正純	プログラム統括		
	_{住所} : 東京都墨田区本所 1-3-7	ヘッドカット機活用回収		
板橋区役所	区長: 坂本健	使用済み歯ブラシ回収全般		
	_{住所} : 東京都板橋区板橋2丁目66-1	環境イベントの開催		
株式会社リフレインケア	代表者: 小野一成	ヘッドカット機の開発		
	^{住所:} 東京都あきる野市草花3492-117	・・グトカクト版の開発		
タカプラリサイクル株式会社 東京営業所	代表者: 髙橋俊策	ヘッドカット機活用回収		
	_{住所} : 東京都荒川区西日暮里 2—20—1	スタドカクド機//		
	ステーションボートタワーピル 6階			

⑥本事業の実施スケジュール実施

		20	22	2023			
	9	10	11	12	1	2	3
機器開発	仕様確定 発注	設計	試作 調達	組立 完成			
イベント回収					◆イベント回収		
再生	◆先行試験				◆再生実験		
報告						◆報告	